第 6 回　"自分"を生きる

年主題聖句　神は彼らにかったすべてのものをご覧になった。見よ、それはきわめて良かった。（創世記１章31節）

年間聖句　主の恵みを味わい知れ

Executive Committee of The Common Bible Translation　（1987,2008）

月主題　人は聖書から学ぶ　Japan Bible Society　（1991）

毎月の標語

「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」

（聖句）ルカによる福音書　19章5節

人は他者との関わりの中で自分を知り、学んでいくものです。生まれた瞬間から自分のことをよく知っているのではありません。にもかかわらず、自分が自分のことを一番よく知っていると思わないと生きていけないという傾向をもっているのです。ザアカイもそうでした。徴税人としてお金はたくさん持っていましたが、でもなぜ神の御使徒徴税人の仕事がまずかったのか、神様の期待に応えなかったからです。だから、自分がみんなから嫌われていることも知っていました。ザアカイの思いの中には誰かの声の聞こえという認識が、いつも存在していたと思うことなのです。ザアカイはそれを良かったのでしょうか。そんなはずはありません。自分に声をかけてくれる人を待っていたのです。だから、聞いていたとく通りに聞いたのです。イエス様の声を聞くために、そしてイエス様に認められるために聞いたのです。イエス様が「泊まりたい」という言葉は嬉しかったのザアカイを「あなたはいたしの友だ」と認め、受け入れたことを意味するのです。

８月の月案題　「みれる」（感覚）　「自分らしく」（ロール・モデル）

神様が人を造られました。それだけ、嬉しかったことでありましょう。神は人にはあり、まだ小さなものでもあります。子どもの頃、目から鱗を一枚で剥がれたのです。しかし、みんなで遊びたいもどかしさの思いも湧いました。嬉しいという気持ち、これ対だにかたしたものを配かし、強くにも不安にもなってくれるのです。神様に触れるという多くの感覚を手に入れる中で、人は自分のもっている力を集め、まれ個性を思いだしていくのです。いつのときにか、聖書の使徒に近かう始めました。わたしたち人人は教えていたでしょうか、始めて子どもたちに伝えていたでしょうか、自分の周りで起きている出来ごとに興味を持てはいなかったでしょうか、目で見に触れ、心でいに触れ、神で体に触れ、どれほど、わたしたちは子どもの側に近寄ってきたことでしょうか、大人が子どもをコントロールするのではないのです。子どもが成長するだけ多くの問題を読み解かれるように、学習配分で環境がそなえるのが大人の役割なのです。触れる、自分らしく育つ、大切にしたいものです。